

## 拠点像6 チャレンジする人材の拠点

### 概要

九州北部地域は古くから港があり、アジアの人や文化を受け入れてきた歴史や風土がある。古くは最澄・空海、栄西のようにこの地を訪れ、教育や文化などの実績を残して次の地へ赴くという実績がある。今後も、アジアからの優秀な人材を引き付けるため、地の利の良さや産業・技術の集積を活かし、アジアの企業が投資や進出したくなる環境を整備するとともに、留学生をはじめ、学問や技術、新事業などにチャレンジしたいという優秀な人材が集まり、その能力を最大限に発揮することのできる都市圏像を描く。

(拠点像を支える要素)

留学生の多さ、蓄積された環境技術、ベンチャーの創出のしやすさ、システムL S I・自動車等の産業の集積

### 施策の方向

#### ○留学生や外国人の能力発揮の支援

福岡県は、全国3位の留学生を抱えるが、福岡で就職する留学生は少ないのが現状である。物価の安さや、都市と自然のバランスなどに対する評価は高いものの、それが就職につながっていないことから、留学生サポートセンター、国際ビジネス人材支援会議、ベンチャーサポートセンター等の取組を通じ、就職の支援、創業に必要な相談や事務的補助を行い、留学生をはじめとする外国人がここにとどまり、就職・起業しやすい環境を作っていく。

#### ○アジアの企業が投資や進出したくなる環境の整備

わが国の企業が中国に進出しようとする場合に、日本語人材が豊富な大連を選択する企業が多いことを踏まえ、アジアの企業が日本に進出する場合は当地域を選択してもらえよう、アジア言語人材の育成やサポート体制を充実するなど、ビジネス環境の整備を図る。

#### ○外国人の起業化の支援

外国人に魅力的な生活環境があっても、生活の基盤となる就労の場の確保がなければ、外国人がこの地域に住み、活躍することはできない。

そのため、外国人に対する就職支援と合わせて、起業化のサポートを行い、福岡発世界企業の創出を目指す。

## 拠点像の実現に向けた取組例

(●印はすでに実施済みのもの。★印は、これから実施するもの。)

### ●アジア太平洋こども会議の開催

アジア太平洋30数ヶ国・地域と福岡の子どもたちが、ホームステイや学校訪問を通じて相互理解を深めることで、国際感覚ある青少年を育成し、世界平和と共生の実現を目指す取り組み。

### ●日本文化塾の実施

留学生を対象に、様々な分野の第一線で活躍される方々による講演とディスカッションを月1回ペースで開催する。

伝統文化、地域文化、企業文化、若者文化など幅広く日本の文化について学ぶ場を提供することにより、留学生の日本文化理解を深め、日本を好きになってもらうとともに、留学生が日本に残って活躍するための就職力を高めてもらう。

### ●民間による外国人技術者の職業教育の実施

県内の民間人材派遣会社において、外国人が円滑に県内企業等に就職できるよう、外国人の職業教育に取り組んでいる。

### ●青少年アンビシャス運動

「豊かな心、幅広い視野、それぞれの志を持つたくましい青少年の育成」を基本理念に、家庭・地域・学校・企業などが連携した新たな県民運動。公民館などを活用して地域における子どもの居場所づくりを行う「アンビシャス広場づくり事業」など、15の事業に取り組んでいる。

### ●フクオカ・サイエンスマンス

毎年11月を「フクオカ・サイエンスマンス」と位置づけ、青少年をはじめとする県民の科学に対する理解と関心を深めるふれあいの場を設けている。期間中、大学・高等学校・企業・公的団体など、数多くの団体が、見て、触って、楽しみながら科学を体験できる科学に関する多彩なイベントが実施する。

### ★（G P）外国人が投資や起業しやすい環境の整備

意義と目的	海外からでも起業しやすい福岡をPRすることにより、海外からの投資を呼び込む
事業内容	福岡ベンチャーマーケットを活用し、福岡での事業にやる気がある留学生や海外企業の案件を集め特集を組むことにより、興味がある企業による支援グループを作る。
既存の取組	福岡ベンチャーマーケット

#### 拠点像の実現に向けた課題

##### ■アジアから人材を集めるための外国語による授業プログラム

国においては、留学生の大幅な増加を目指している中で、当地域がさらに留学生を引き付けていくためには、大学等において、外国語の授業プログラムを強化することが必要である。

##### ■中国語、韓国語等アジア言語人材の育成

アジアの人々が、当地域でストレスなく生活し、その能力を遺憾なく発揮していくためには、当地域における中国語・韓国語をはじめとするアジア言語を話せる人材の育成が必要である。

##### ■定住外国人の生活支援

将来的には、少子・高齢化に伴う労働力の不足を背景として、看護・介護人材に限らず外国人労働者の増加が予想され、子どもの教育をはじめとした定住外国人の生活支援を今のうちから検討しておく必要がある。

## 拠点像 7 「海」を活かす都市圏

### 概要

九州北部地域は、海を隔ててアジアと面し、海を介した交流の歴史があり、韓国、中国をはじめ東アジア諸国と海を通じてつながっていることから、わが国におけるアジアとの交流拠点として優位性を発揮することができる位置にある。また、アジアからの視点で見たとき、九州北部の両 100 万人都市である福岡市と北九州市とは海でつながっている。

沿岸には、玄海国定公園や2つの重要港湾、漁港、沖ノ島などの歴史遺産などの豊富な地域資源が連なる一方、沿岸の一体的な活用ができていない。

九州北部地域が、大陸と海が繋がっているという事実を再認識し、域内の連携強化を図ることにより、海を活かし、新たな価値を創造する都市圏像を描く。

(拠点像を支える要素)

国際的な都市間協力の実績、港湾、空港基盤の充実、豊かな歴史・文化とヒーリング・スポット

### 施策の方向

#### ○港湾の戦略的活用

博多港、北九州港は、韓国、中国、東南アジアを中心として東アジアとわが国を結ぶ重要な国際港湾となっている。二つの港湾はそれぞれ輸出、輸入に特色を持った港湾となっており、世界第5位の取扱量を有する韓国釜山港との近接性も活かしつつ、機能の相互補完等を図るなど、より戦略的な運用を図っていく。

#### ○海岸の多様な利用

当地域は、北九州市から糸島半島に至る長い海岸線を擁し、韓国と海を挟んで面している点が特色となっている。海岸沿いには、博多港、北九州港などの港湾はもとより、門司港レトロ地区、砂の美術展で有名な芦屋海岸、海の正倉院と呼ばれ、世界遺産登録候補となった沖ノ島、福岡市小戸のヨットハーバー、糸島半島の自然といった多様な資源を有している。

これらの資源について、産業、観光、レジャー、教育などの幅広い分野に活用していく。

#### ○環黄海地域のグリーン化の推進

### ○環黄海地域のグリーン化の推進

東アジア経済交流推進機構では、海でつながる環黄海の10都市が共通課題として取り組む重点施策として「環黄海地域のグリーン化」を目指している。「海を活かす都市圏」を戦略として掲げていく上で、海洋ごみ、光化学スモッグの広域汚染削減を図るため、東アジア経済交流推進機構等を通じた国際的取組を主導していく。

#### 拠点像の実現に向けた取組例

(●印はすでに実施済みのもの。★印は、これから実施するもの。)

#### ●港湾物流施設の整備

- ・香椎パークポート、アイランドシティ・コンテナターミナル
- ・ひびきコンテナターミナル

#### ●門司港レトロ地区、マリノアシティ等の集客施設の整備

- ・門司港レトロ地区は、JR門司港周辺地域に残る外国貿易で栄えた時代の建造物を中心に、ホテル・商業施設などを大正レトロ調に整備した観光スポットで、国土交通省の都市景観100選を受賞している。
- ・マリノアシティは、福岡市西区のウォーターフロントにある大規模アウトレットモールを中心とした海辺レジャー施設で、大観覧車、ホテル、マリーナなどもそろっている。

#### ★(G P) 沖ノ島の世界遺産登録に向けた取組

意義と目的	福岡県宗像市沖60キロの玄界灘に浮かぶ沖ノ島は、古来、海上交通の安全を祈る国家的祭祀が行われ、大陸との交流を示す貴重な品々が数多く出土していることから、「海の正倉院」とも呼ばれる。2008年ユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載された。
事業内容	世界遺産登録の早期実現に向け、海外へ向けたアピールや地域の機運を高める取組を行うとともに、景観も含めた広域の文化財保護や環境保全を図る。

★（G P）海を活かすための資源抽出

意義と目的	海を活かす都市圏の全体像を一つのマップにすることにより、今後の戦略の推進に活用する。
事業内容	北九州地域から糸島地域に至る港湾、海辺のレジャー・商業スポット、歴史・文化資源、干潟等の自然資源等の海の多様な利用につながる資源を抽出し、海資源マップとして作成する。

★（G P）海的环境保全の国際的展開

意義と目的	近年国際問題化している漂着ゴミ対策に積極的に取り組むことにより、アジアに開かれた海を有する都市圏としての拠点像を対外的にアピールする。
事業内容	東アジア経済交流推進機構の事業の一環として、日中韓10都市海岸クリーンアップ事業を推進する。
既存の取組	東アジア経済交流推進機構の環境部会

拠点像の実現に向けた課題

■港湾施設の効率的利用

2005年の外国貿易用コンテナ取り扱い数は、

博多港 560,000 TEU

北九州港 400,000 TEU であるのに対し、

釜山港 11,843,000 TEU である。

二つの港湾の取扱量を合計しても釜山港の12分の1しかない。

港湾活用や物流活用を促す連携の仕組み、プロデュース機能が必要である。

■海の多面的な利用

当地域全体として、物流、観光レジャー、歴史文化、ヒーリングなど、海を多面的に利用する視点を持つことが必要である。

### 施策の方向

**拠点像 1 アジアの大交流拠点**

○ダイナミックな交流  
アジアとの良好なアークセス、文化施設、ショッピング、おいしき、自然などがコンパクトに揃い総合的に楽しめる都市圏の良さを活かし、観光、コンベンション、国際学術交流などの一層の興隆により、アジアをはじめとする世界の一大交流拠点を目指す。

○ゆとりある都市生活のフロンティア  
都市と農山村が身近に接し、それぞれの住民が都市機能と豊かな自然の両方を享受できるという利点を今後さらに充実させ、今後のアジアの諸都市のあり方のモデルとなる。また、少子高齢化社会等に対応し、高齢者や外国人など誰もが安心して暮らす社会参加ができるような都市を目指す。

**拠点像 2 環境先進**

アジアでは、急速な経済発展により環境問題が深刻化しており、持続的な発展のためには、国境を越えた環境への取り組みが必要である。  
深刻な産業公害を克服した都市圏の経験と、それによって培われた環境・リサイクルの技術やノウハウを活かし、環境負荷を大幅に低減する資源循環型の新しい環境モデルを構築し、アジアにおける環境問題の解決に貢献する先進拠点を目指す。

**拠点像 3 新しい芸術・文化の創造拠点**

古来から、アジア文化のわが国への窓口であったという歴史や、近年において、アジアにおいて若者を中心にマンガ、映画、音楽、食文化など感性や価値観を共有する文化が広がっており、多様な文化が融合する新しい文化芸術の創造拠点を目指す。

**拠点像 4 イノベーションの拠点**

自動車、半導体、鉄鋼などの産業集積や、水素、ロボット、バイオなどの次世代産業の技術の蓄積を活かし、大学などの研究機関の知との融合や新たな分野での活用を図るとともに、水不足による節水などの地域の経験により蓄積された技術を活かし、ものづくりにとどまらず、サービス向上や社会システム改善に資する様々なイノベーションの拠点を目指す。

**拠点像 5 世界の知的センター**

数多くの大学院を有する大学や研究機関、アジアを中心とする多くの留学生が存在する九州北部地域は、世界レベルの高度な学術研究基盤を有している。地域である優位性を活かして、さらに最先端の研究機関を誘致し、アジアをはじめとする世界から多くの研究者が集まる、高度な学術研究が展開する知的拠点を目指す。

**拠点像 6 チャレンジする人材の拠点**

九州北部地域は古くから港がありアジアの人や文化を受け入れてきた歴史や風土がある。今後も、アジアからの優秀な人材を引き付けるため、地の利の良さや産業技術の集積を活かし、アジアの企業が投資や進出をたくくなる環境づくり、留学生をはじめ外国人が学業、就職、起業などチャレンジしやすい環境づくりを進め、その能力を遺憾なく発揮できる人材の拠点を目指す。

**拠点像 7 「海」を活かす都市圏**

九州北部地域は、海を隔ててアジアと面し、海を介した交流の歴史がある。沿岸には、玄海国立公園や2つの重要港湾、漁港、沖ノ島などの歴史遺産などの豊富な地域資源が連なる一方、沿岸の一体的な活用ができていない。海を地域の新たな付加価値、魅力として、域内の連携強化を図る。

- 観光・コンベンション・国際学術交流の推進
- 外国人が訪れたくなる受け入れ態勢の整備
- 「ゆとりある都市生活」(QOL)の情報発信
- 高齢者の能力活用の推進
- ユニバーサルデザイン推進

- 公害克服の経験により培われた技術・ノウハウの活用
- 資源循環型の新しい環境モデルの構築

- 九州国立博物館を核としたアジア文化との広範な交流
- ゲームコンテンツ・フアンションを活用した知名度アップ
- マンガ、アニメ、音楽、食などの「面白さ」の情報発信

- 異分野資源・技術の組合せによる新産業の創出
- 社会システムの改善に向けたものづくり技術の活用

- アジア諸国との技術・経済交流の促進
- 大学・研究機関による海外との知的交流の促進
- 外国人の居住環境の整備

- 留学生や外国人の能力発揮の支援
- アジアの企業が投資や進出したくなる環境の整備
- 外国人の起業化の支援

- 港湾の戦略的活用
- 海岸の多様な利用
- 環黄海地域のグリーン化の推進

### グッド・プラクティス これから実施する取組

既に実施している取組

東アジア経済交流推進機構	「アジア交流広域都市圏」の情報集約と共同発信
アジアをキーワードとしたイベントの実施	高齢者能力活用による社会貢献活動の推進
福岡市ソウルプロモーションの実施	訪日外国人及び短期滞在外国人向け観光情報の提供
地域完結型医療システム	
福北導水事業	
水素タウン、水素ハイウェイ	アジア各国の国際環境人材の育成
北九州エコタウン	石炭ガス化・高効率発電システムの開発
群馬台国九州説に関する情報発信	
A Y C C による若者文化交流、情報発信	地域資源を活かした北九州・市漫画ミュージアムの整備
フィルムコミッションの取組	
福岡発フアンションブランドの発信	Rubyビジネスの振興
ロボット、バイオ、コンテンツ等新産業の振興	高齢者向け・新コンセプトカーの開発
九州北部学術研究都市構想	九大学研都市等への研究機関の誘致
ベンチャーマーケットの実施	アジア研究機関の充実強化
留学生サポートセンター	
アジア太平洋こども会議	外国人が投資や起業しやすい環境の整備
日本文化塾の実施	
民間による外国人技術者の職業教育の実施	
青少年アンビジュアス運動	
フクオカ・サイエンス	沖ノ島の世界遺産登録に向けた取組
港湾物流施設整備(ひびきコンテナターミナル/フイランポート)	海を活かすための資源抽出
門司港レトロ地区の整備	海を環境保全の国際的展開
マリノア・シテイ	